

つちろうしよ  
土籠御書

日蓮は明日佐渡国へまかるなり。今夜こよいのさむきに付ても、ろう（牢）のうちのありさま、思おもやられていたはしくこそ候へ。

あはれ殿は、法華經一部色心二法共にあそばしたる御身なれば、父母六親一切衆生をもたすけ給べき御身也。

法華經を余人のよみ候は、口ばかりことば（言）ばかりはよめども心はよまず。心はよめども身によまず。色心二法共にあそばされたるこそ貴く候へ。

天諸童子てんしよどうじ以為給使いいきゆうじ刀杖不加とうじようふか毒不能害どくふのうがいと説れて候へば、別事はあるべからず。籠ろうをばし出させ給候はば、とくとくきたり給へ。見たてまつり、見えたてまつらん。恐恐謹言。

文永八年辛未十月九日

日蓮 花押

ちくごどの  
筑後殿